

2020年
6月発行
第123号

わかやま・こどもクリニック

キャロット通信



大分市明野北 1-7-10
受付代表 097-556-1556
発信専用 090-2968-1556
折り返しのお電話は受付代表へお願いします。

ホームページ
「みんなの広場」にてご来院いただいたかわいい笑顔をぜひご覧ください。

わかうさ日記
当院での出来事やワクチン情報も掲載します！

LINE公式アカウント
流行情報・休診のお知らせ・ワクチン不足や入荷など気になる情報をLINEでお届けします。
友だち募集中 ID: @jnd6346k



皆さまの毎日の感染予防対策により、毎年この時期に流行する子どもの感冒などの感染症は落ち着いています。ただ、喘息などの持病のある方は、梅雨や台風の近づくこの時期は、喘息の発作が出やすくなります。喘息で定期内服をしている方は、お薬が切れないうちに早めに受診しましょう。汗をかく時期は、皮膚のかゆみが増し、アレルギーや湿疹の出ているお子さまは悪化しがちです。皮膚を清潔に保ち、外出時は体温調節のしやすい服装にし、紫外線対策も忘れないようにしましょう。

お知らせ

- ① **夜間診療**は現在、新型コロナウイルス感染症の流行状況によって受付終了時間を変更しております。
【LINE】でお知らせしますので、まだ登録されていない方はご登録をお済ませください!!
- ② **手作り布マスク**を数量限定ですが窓口に準備しております。
(当日受診されるお子さま)

LINE公式アカウント
登録者限定

日焼け止め
サンプル
プレゼント

新型コロナウイルス感染症

緊急事態宣言は解除されましたが、新型コロナウイルス感染症の心配がなくなったわけではありません。これからも、次の3つは引き続き実施していきましょう!!

- ① 3つの密を避ける(密閉・密集・密接)
- ② 人と距離を取る
- ③ マスクの着用

～皆さまに安心して来院いただけるよう当院でも感染防止対策に取り組んでいます～

※5月25日時点での取り組みです。
状況に応じて変更していきます。

① 院外にて受付
来院前に検温、マスクの着用をお願いします
また院内での付き添いは、最小限の人数とさせていただきます。

② 院内に入られる方皆さまに
①検温 ②マスクの着用をお願い
③新型コロナウイルス感染症についての問診

③ 問診により、各々に応じて待合室を分け、院内で感染の恐れのある方と接触がないよう徹底
①待合室「発熱のない方」と「症状のある方」の待合場所を分けています。
②感染症状のない方に入ってください「エンゼルルーム」 ③個室 ④車内

④ 感染症状のある方とスタッフの接触も最小限に
①詳しいお話は車内に戻っていただき、お電話でお尋ねしています。
②診察後もすぐに車に戻っていただき、会計や処方箋のお渡しはスタッフが車まで伺います。

⑤ 「3つの密(密閉・密集・密接)」を避ける。
①院内は常に窓を開放し換気を徹底
②予約の調整…待合室での人数を制限し、十分に距離を取れるよう配慮する。
③診察前後の待合(待機場所)の分散

⑥ 院内の消毒
①皆さまが手を触れる、自動ドアのタッチ部分や、ドアノブ、ソファ、トイレなど、時間毎に消毒を行っています。
②手指消毒
③自動ドア前にアルコールスプレー、トイレには薬用ハンドソープを設置

⑦ 感染拡大を引き起こす可能性のある処置や検査の自粛

⑧ スタッフのマスク着用と体調管理
勤務直前の検温と体調チェック、報告の徹底、微熱や体調不良のスタッフは勤務しておりません。

予防接種・定期処方について

このような時期ですが、**予防接種**は、予定通り進め、**定期処方**も切れないように**継続治療**をしていきましょう。

ご心配なことがありましたらスタッフにお尋ねください。

スタッフ一同、院内感染防止に努め、皆さまに安心して来院して頂けるよう配慮しています。皆さまのご理解とご協力をお願いします。





体にブツブツ（発疹）ありませんか？

発疹はかゆみを伴うものが多く、汗をかくこれからの時期はかゆみも増すため、ついつい掻いてしまいます。掻き崩すと悪化し広範囲に広がり治りも悪くなります。掻き崩して悪くないよう爪は短く切り、皮膚を清潔に保ち、発疹を見つけたら少ないうちに早めに受診しましょう。



●虫刺され



虫に対するアレルギーがあると、刺されたところが腫れたり水疱ができたりします。虫に刺されたら、石けんなどで洗い流し、すぐに塗り薬を使用すると悪化を防ぐことができます。また腫れやすい体質の方は、虫に刺されやすい夏の間は抗アレルギー剤の内服も効果があります。



- ◆「虫刺されの塗り薬」は当院でも処方できます。
- ◆「日本脳炎」は蚊を介して感染します。日本脳炎の接種がまだの方は、お早めにお済ませください。生後6か月から接種が可能です。（公費接種）

●あせも

汗腺に汗やほこり、垢がたまって炎症を起こします。かゆみを伴う小さい赤い発疹で、肌一面に広がります。軽い場合はホームケアで治りますが、なかなか治らない場合やかゆみが強い場合は、悪化する前に早めに受診しましょう。衣類は通気性や吸汗性のよいものを選びましょう。汗をかいたらこまめに着替え、シャワーで汗を流すなどし、あせもにならないよう予防しましょう。



- ◆「あせもの塗り薬」は処方可能です。

●とびひ（伝染性膿痂疹）

湿疹や虫刺され、擦り傷に菌が感染しておこる感染力が強い皮膚病です。かゆみがあるため、掻き崩すと「飛び火」のようにあつという間に広がるため、早めの治療が必要です。軽い場合は消毒や塗り薬で治りますが、ひどくなると抗生剤の内服や点滴が必要になります。水疱のあとが乾くまでは入浴は控えシャワーのみにしましょう。かさぶたが取れるまでは人にうつるため、プールは控えましょう。

●水イボ（伝染性軟属腫）

発疹の中にはウイルスがいるので、掻いてイボがつぶれると身体他の部位にウイルスがついて、増えてしまいます。タオルの共用やプールで感染が広がるため、水イボがあるとプール遊びができなくなることがあります。広範囲に広がると治療が大変になります。水イボを見つけたら、少ないうちに受診してください。



軟膏処置について



「とびひ」や「アレルギーの湿疹」は、病院で数日間 お薬を塗ることがあります。お薬は肌を清潔にして塗った方が効果的です。受診する時はお風呂に入って汗や汚れをきれいに落として来てください。病院でお薬を塗った後、数時間でお風呂やシャワーを浴びると、意味がないばかりか自宅での塗り直しが必要になります。仕事や保育園で日中の受診が難しい時は、月、火、木曜の夜間診療日であれば18時以降の予約も可能です。予約時間については看護師にご相談ください。

●水ぼうそう

全身に水疱のある発疹ができる病気です。腹部、背中といった身体を中心部から手足に発疹が広がっていきます。発疹は2、3日でピークとなり、その後枯れて黒いかさぶたになってきます。感染力が強いため、発疹がかさぶたになるまでは隔離が必要です。



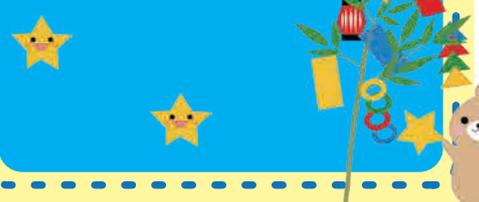
- ◆水ぼうそうにかかりはじめの人と接触して2、3日以内に水ぼうそうワクチンを接種すると、発症せずに済むか、かかっても軽くなりますので、予防接種をしていないお子さまはすぐに受診しましょう。

●手足口病

ウイルス感染により手のひらや指、足の裏、口内に複数の水疱ができる病気です。膝やお尻に発疹ができることもあります。ウイルスの種類によっては高熱がでることがあり、髄膜炎や脳炎を起こすこともあるので注意が必要です。発疹を発見したらすぐに受診しましょう。感染力があるので、発疹が茶色く枯れるまでは隔離が必要です。

今後のスケジュール

- 7月23日（木）
海の日のため休診
 - 7月24日（金）
スポーツの日のため休診
- ※夜間診療受付時間は、
「LINE」にてお知らせします。
随時確認をお願いします。



園でのお薬が内服できない時は？



保育園や幼稚園に通園していると、園でお昼の薬が内服できないことがあります。そのため「1日2回の内服で処方してもらえますか？」と希望される方がいますが、当院では1日3回内服と決められているお薬を、2回にして処方することは行っていません。

1日に内服するお薬の量は体重で決まっており、決められた回数を内服することで初めてお薬の効果が得られます。1日3回で内服する薬を2回にすると、1回に内服する量が1.5倍になり、日中に眠気などの副作用が出やすくなります。園でお薬が内服できない時は、「起床後」「園から帰宅後すぐ」「就寝前」の3回で内服するようにしましょう。

赤ちゃんはミルクや離乳食を与えた直後だと、胃の中がいっぱいでお薬を吐いてしまうことがあるので、食事と関係ない時間で1日3回内服させるとよいでしょう。

